

経営比較分析表（令和3年度決算）

青森県 藤崎町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)	
-	76.65	99.68	5,368	

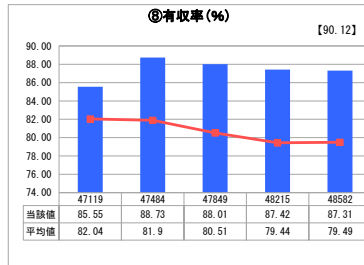
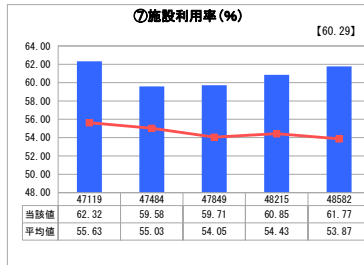
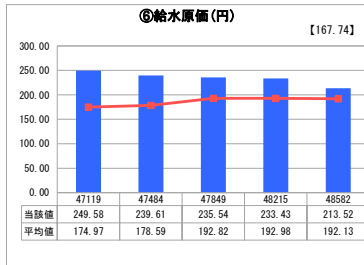
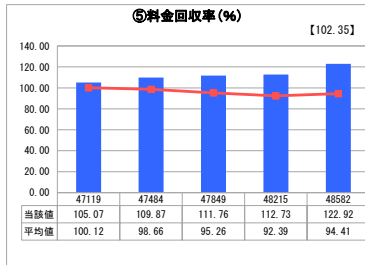
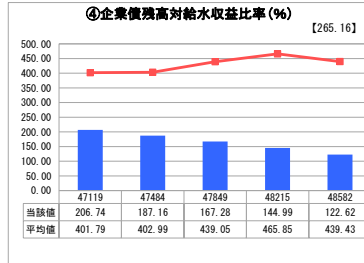
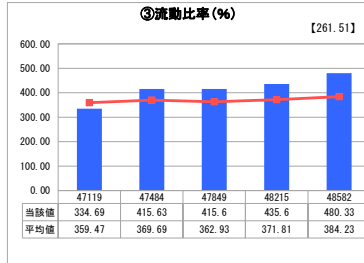
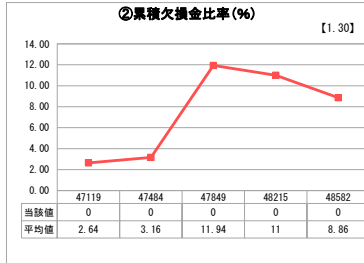
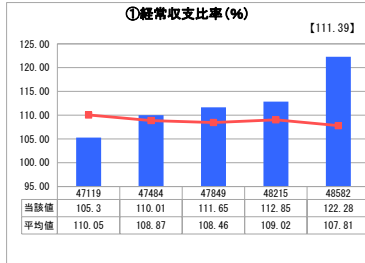
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
14,704	37.29	394.31
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
14,580	37.26	391.30

グラフ凡例

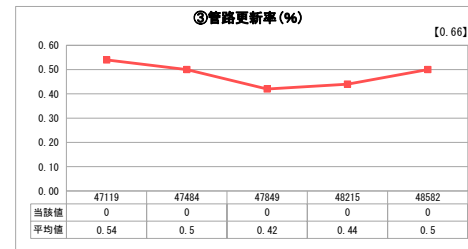
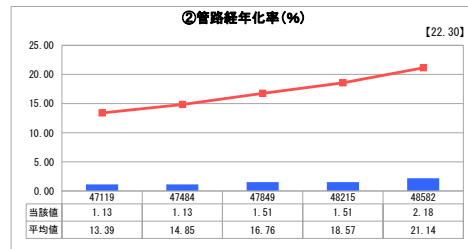
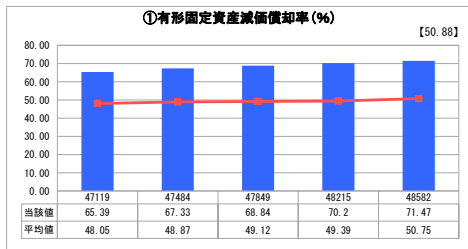
- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）

【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

当町の水道事業は利益が発生し、かつ累積欠損金がない状況にあり、経営は健全であるといえます。経常収支比率、流動比率とも短期的には改善の傾向にあります。しかしながら、現在町の移住促進事業等により戸建て住宅が増加傾向にあることから施設利用率は上昇していますが、今後人口の減少や節水器具の普及、水道施設等の老朽化による修繕費等の増加などの理由により、減少していくものと想定されます。また、今は給水に係る費用を給水収益で賄っていますが、人口減少等による収益の減少や更新投資の増加により、企業債残高対給水収益比率の増加、また料金回収率も下がっていくと想定されることから、更なる経費の削減や広域化による維持管理費の縮減に取り組んでいきます。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率が類似団体より高く、固定資産の老朽化が進んでいることがわかります。現在は管路経年化率が低く耐用年数を経過した管路が少ない状況にありますが、今後耐用年数に達し更新時期を迎える管路が増加していくことが考えられるため、策定済みのアセットマネジメント等により、経年化した管路を順次更新していきます。

全体総括

現時点では経営は健全であります。これから迎える管路の更新の際には、平成27年度に策定した藤崎町アセットマネジメント計画及び、平成29年度に策定した水道事業基本計画をもとに、管路の長寿命化に加え、人口減少にあわせた管路の口径のダウンサイジングを図りつつ、更新時期の前倒しも念頭に入れ順次管路更新をしていきます。その際には管路の耐震化も併せて進めていきます。令和4年度には経営戦略の見直し、改定を行った上で、将来的な更新費用等を算出し、適正な水道料金設定になっているか引き続き検討していきます。